

第 194 号

発行日：2015年11月1日

発行人：神 立 秀 明

〒950-2172 新潟市西区内野上新町11810番地3

TEL 代表(025)264-5000

FAX(025)261-4430

在宅ケアセンターゆうばえ内



夕映えの会

住民の声

戦後70年シリーズ

敗戦から70年

今こそ思い出すとき



笹川 辰雄

昭和5年、私が生まれた頃は昭和の大不況と云われた時代でした。5歳の時に敗血症で父を亡くした私は、祖母の手で育てられました。物心がつくと戦争の足音がひたひたと迫り、時代は軍国主義一色に染まってきました。何のためらいもなく私は予科練（旧日本海軍の海軍飛行予科練習生）を志願しました。昭和18年の秋のことでした。滋賀県・大津海軍飛行隊に配属され、先ずは5日間の訓練が待っていました。その間、アメリカ軍艦載機の銃撃は琵琶湖畔まで迫り私たちは上官の命令どおり木の枝で練習機を隠し、一目散に逃げました。既に日本本土の制空権は完全にアメリカに握られています。

した。私は訓練を受け飛行機乗りになる予定でした。しかし強度の車酔い癖があり、上官はげんこつを振るいながら「貴様は飛行機乗りにはむかない」と帰宅を命令したのでした。この時の私を含めた4人、もしそのまま訓練を続けていれば間違いなく生きて帰ることはなかったろうと思います。糸が立つ様な飯と汽車賃を貰って新潟にたどり着き、祖母と母に「ただいま」と言うと、どう工面したのか赤飯を作って帰還を祝ってくれたのでした。

昭和19年、私は昭和石油に勤めました。15歳の春でした。8月11日、新潟に原爆が落とされる危険があるため疎開するよう県知事の布告がありました。予備要員として会社に入れた私は、疎開の提灯行列をほんやり眺めていました。すると母親らしき人が5千キロリットルの水槽の傍で子どもだけでも蚊帳の中で寝かせてやりたいと懇願するのです。語り草になった「新潟が空になった日」の一場面です。

昭和24年私は結婚しましたが食糧事情のひどさは続き、母と私は結核を患いました。小さな子供を抱え私と母を看病する日々を振り返って家内は「もう死んでしまおうか」と幾

度も思ったと言います。この頃の暮らしは一家に働き手がないわけですから最大の苦難でした。お金が私ら貧乏人の脇をすり抜けていく、親戚も寄り付かなくなるといった状態でした。

医療費は高いものの抗生剤・ペニシリンの効果は抜群で、ようやく結核も治り会社に復帰した私は、戦後の復興期懸命に働きました。でもそれもつかの間、今度は39年の新潟地震による昭石の大火災に見舞われました。油火災から、もっと重篤なガス爆発事故が懸念されました。大惨事は防げましたが、会社再建のため私たちは「昭石再建街頭署名」に立ちました。身を粉にして働き、会社を退職した時はようやく肩の荷が降りた感でした。

さて戦前・戦中・戦後を生きて85年、私の隣にはいつも戦争と貧乏がありました。今が裕福という訳ではありませんが、極貧から抜け出すのにどれほど苦労したか、身に染みてわかっているつもりです。昨今のきな臭い政治は何でしょう。無謀な戦争の敗戦から70年、あの時の苦労を今、思い出す時ではないでしょうか。

(内野上新町在住)

夕映えの会 秋の日帰り研修旅行

穏やかな小春日和の10月24日、三条市のNPO法人「地域たすけあいネットワーク」を夕映えの会員16人でお訪ねしました。昭和初期に建てられた金物屋さんの住宅を改装した施設を見学し、理事長の加藤裕子さんから事業内容をお聞きしました。お約束の時間が延長になるほど活発な意見交換が行われ、大変有意義な研修となりました。

介護事業ではデイサービスと訪問介護。障害者総合支援事業では居宅介護。その他にたすけあい事業（生活支援）と福祉有償運送、配食サービスなど多岐にわたっています。

またどなたでも入ってくつろげるコミュニティティーカフェ「ふらっと」も楽しそうでした。



元気の出るデイ（小規模・定員12名）



前列右から二人目 加藤裕子理事長



コミュニティカフェ「ふらっと」



「健やかな生活」してきます！ 第24回 妻との別れを乗り越えて 第二の人生も楽しいもの

細川 四十一（新中浜 丁目）

製紙会社の製管工として定年後も働いていた時、突然悪夢が襲いました。妻

に子宮がんが見つかったのです。早期に見つければ充分に治るがんと云われていますが、妻のがんは手遅れでした。私も子どもたちも希望を捨てず、治ることを信じて必死に妻の闘病を支えました。3回の手術、その後の化学療法はもろろん良いサプリがあれば試しました。半端な金額ではありませんでした。一時期持ち直してくれ、お医者さんもびっくりしました。が、がんには勝てませんでした。二年の月日が経ち、ついに別れの日が来ました。妻・ふさ子は66歳の若さでした。

私には24歳の時、一つ年下のふさ子と結婚しました。経理の事務をしていたこともあって賢く、私は一目で結婚を決めたものです。有体に言えば「かけがえのない妻」ですが、私にとつては何でも相談でき、「命を預けられる妻」でした。

闘病中まだふさ子の意識がはっきりしていた時のこと。「お父さん、私が試食してあげるからお料理の練習しないとね」と。私はレシピ本を見ながら慣れない料理を作っては感想を求めたものです。

妻がいなくなつてから私はもう何をしても良いのか、目の前は真っ白。茫然自失の日々が続き、夜になれば酒で寂しさを紛らしてテレビだけが友達の日々……。「このままでは駄目になつてしまふ」、悶々とした日々が5年ほど続いたある日、友達から一本の電話がかかってきました。夕映えのお弁当配りをしてもらえないかというもので、久住一男さん・小島萬里子さんとお会いしました。以来週二日、お弁当配りを続け5年が経ちました。始めの頃は配るお家を忘れてしまふ心細さもありましたが、今はバツチリ。私や夕映えさんの都合ではなく、私の配るお弁当を待つてくれている人がいる。私のささやかな張合いです。

中浜団地をぐるっと一周すると約6千歩。西が丘まで足をのばせば1万歩。無理せずに夕方の散歩を楽しむ日々。今は一人でも楽しく暮らせるようになりました。

第11回

夕映え祭り開催!



10月4日(日)「在宅ケアセンターゆうばえ」駐車場にて毎年恒例の「第11回 夕映え祭り」が開催されました。

さわやかな秋晴れの空の下、地域の皆様、ご利用者様とそこご家族など大勢の皆様にご参加いただき、過去最高の人出となり大いに盛り上がりました。



*当日ご参加いただきました地域の皆様、ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。

芦岡さんの

ご飯ですみ〜!

ゆうばえの里 管理栄養士
芦岡 実可子

【さつまいものきんぴら】

さつまいもを皮ごと使ったきんぴらです。

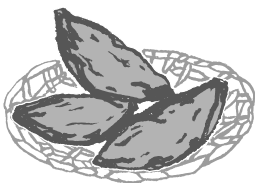
〈材料〉(作りやすい分量)

- ・ さつまいも 200g
- ・ サラダ油 大さじ1
- ・ 砂糖 大さじ½
- ・ しょうゆ 大さじ½
- ・ 酒 大さじ1
- ・ コマ油 小さじ1
- ・ 黒ゴマ 少々

〈作り方〉

① さつまいもはよく洗い、皮をつけたまま斜めに薄切りにする。さらに4〜5cm長さの細切りにし、すくの水につける。水を3〜4回かえてしっかりとアクをぬぐ。

② フライパンにサラダ油を熱し、水気をふいたさつまいもを強火で炒める。2〜3分間炒めたら、砂糖、しょうゆ、酒を加え、炒め合わせる。仕上げにコマ油をふり、黒ゴマ少々を散らして完成。



2015 11 ミニイベントの お知らせ

4日(水) お抹茶をいただく会 佐々木紀美様他

9日(月) 踊り 「赤いぐみ」 諸塚幸子様他

13日(金) マジックショー 佐々木邦次様

15日(日) 民謡 「梅芳会」の皆様

17日(火) レクダンス 「和の会」の皆様

19日(木) 語り部 「あねさの会」朝妻サワ様他

25日(水) ハーモニカ演奏 「はもらんかい」の皆様

26日(木) 新舞踊・民謡 「秋葉すみれ会」堤イミ子様他

28日(土) いっぺこと歌おいね 川崎和幸様

とき

午後2時30分より ※お抹茶を頂く会は 午後3時15分より

ところ

ケアセンター「ゆうばえ」 デイサービスセンター 地域の皆さんのご来所をお待ちしています。 一緒に楽しみましょう。

ご案内

在宅介護で注目される小規模多機能居宅介護施設

ゆうばえの家De 茶話会&音楽のしらべ

- と き 11月16日(月)午後2時~4時
 - 会 場 ゆうばえの家
 - 音楽のしらべ バイオリンの生演奏を準備しています。 乞うご期待！
- ゆうばえの家施設長井口さんから、「ゆうばえの家」のお話と施設見学をおこないます。
- 参加方法 先着10名 締切11月14日(土) 小川携帯 (090-1431-7996) まで

投稿短歌

祭りの踊
米寿の友が輪に入る
さす手引く手の
鮮やかな事
平澤 久子様



職員募集

- 介護職員(勤務時間は相談可。)
 - 主任介護支援専門員
 - 看護師(日中のみ)
- お気軽にご一報ください。

(お問い合わせ) TEL 264-5000 吉田まで



連絡先一覧

- 夕映えの会
お弁当配食については
★配食事業部へ
090-1654-9821
- 生活支援については
★生活支援部へ
090-1431-7996
お気軽にご連絡ください。
- 生活支援、配食、運転
ボランティア募集
- 社会福祉法人ゆうえい会
在宅ケアセンターゆうばえ
(代)025-264-5000
- ゆうばえの里
ケアハウス 025-264-5715
ショートステイ 025-264-5730
- ゆうばえの家 025-264-0808
- ★介護のご相談はケアプランへ
025-264-5701



編集後記

義母が脳出血で倒れました。幸い出血の程度は軽く、最悪の結果は避けられました。しかし、「脳の運動野の神経が圧迫されており右半身麻痺の後遺症が残る自立歩行は難しい」とは担当医の弁。義母は84歳、義父は87歳。零細企業を営んでいる義弟は伴侶に恵まれず親子3人の暮らしです。義母の頑張りで回っていた暮らしは大変な困難に直面しています。体調がすぐれないと思いつつも、玉ねぎを植え里芋を全部掘りあげての脳出血...。「そんなに無理しなくても」とは簡単に言えないのが農家の暮らし、義母の気持ちは良く分かります。夕映えの会で養った経験を生かし、夫婦で力を合わせ全力で支えなければと覚悟しています。(M記)